

## 診断に苦慮したミュンヒハウゼン症候群患者の 尿道自傷の1例

福原慎一郎, 川村 憲彦, 角田 洋一  
今津 哲央, 原 恒男, 山口 誓司  
市立池田病院泌尿器科

### A CASE OF SELF MUTILATION OF URETHRA IN A MUNCHAUSEN'S SYNDROME PATIENT

Shinichiro FUKUHARA, Norihiko KAWAMURA, Yoichi KAKUTA,  
Tetsuo IMAZU, Tsuneo HARA and Seiji YAMAGUCHI  
*The Department of Urology, Ikeda Municipal Hospital*

A 33-year-old man presented with urethral bleeding and syncope. Urethroscopy revealed erosive lesion with bleeding at bulbar urethra. Magnetic resonance imaging, biopsy, and blood examination were performed, but the cause of urethral bleeding was not identified. By accident, chopsticks with blood were detected in his ward. It was revealed that urethral bleeding was caused by self-mutilation with chopsticks. He consulted a psychiatrist, and was diagnosed with 'munchausen's syndrome'.

(Hinyokika Kiyō 53 : 829-831, 2007)

**Key words :** Munchausen's syndrome, Self mutilation

#### 緒 言

ミュンヒハウゼン症候群<sup>1)</sup>は虚偽性障害として位置づけられ、心理的徴候・症状の意図的産出またはねつ造を行い、しばしば診断に苦慮することが多い。今回、診断に苦慮したミュンヒハウゼン症候群患者による尿道自傷の1例を経験したので報告する。

#### 症 例

患者：33歳，男性

主訴：血尿および失神

既往歴：中学生時，口唇裂手術

家族歴：幼少時，両親離婚

現病歴：2003年5月駅のトイレで尿道より出血しながら倒れているところを発見され，近医へ救急入院となった。膀胱鏡にて球部尿道に広範に出血を伴うびらんを認め，尿道病変精査加療目的にて同月当科紹介入院となった。

現症：身長 165 cm，体重 70 kg，栄養状態普通。表在リンパ節は触知しなかった。

検査成績：検尿，尿沈渣にて尿潜血を認めた。血液一般，生化学，止血機能に異常は認めなかった。止血機能は正常，尿細胞診は陰性であった。

画像診断：静脈性腎盂造影，腹部CTでは尿路，その他部位も含め出血の原因となるような所見を認めなかった。陰茎MRI (Fig. 1) では陰茎海綿体は左右ともに正常であったが，尿道海綿体は腫脹し，外因性に



**Fig. 1.** MRI (T2 weighted) showed that corpus cavernosum penis was within normal limit and corpus spongiosum penis was edematous.

よる損傷が疑われる所見を認めた。海綿体と尿道との交通や異常血管などは認めなかった。

入院後経過：入院後，尿道膀胱鏡を施行した。振子部から球部尿道にかけて全周性に出血を伴うびらん (Fig. 2) を認めた。びらん隆起部の生検を施行したが，病理組織学的に炎症所見を認めるのみで悪性所見は認めなかった。また，神経内科共観のもと失神の原因検索のため，循環器系，神経系の検査を施行したが，失神の原因となるような明らかな異常所見は認めなかった。入院後も尿道よりの出血を伴う失神発作を繰り返した。失神する場所が常に個室トイレであること，バルーンカテーテル留置中は尿道出血だけでなく

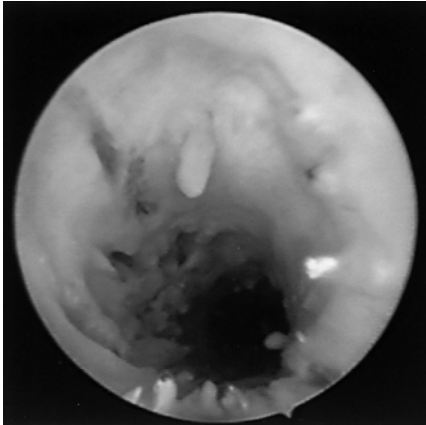


Fig. 2. Urethroscopy showed erosion at bulbar urethra.

失神発作も起きないこと、尿道出血、失神を引き起こす明らかな原因疾患がないことより、自慰行為を含めた自傷行為を強く疑ったが、本人が自傷行為を否定し、物証もないため確定診断にはいたらなかった。繰り返す出血により Hb 値は 4 mg/dl まで低下し、計 8 単位の輸血を含め対症療法にて経過観察を行っていたところ、偶然ウエストポーチの中より血液の付着した塗り箸が見つかり、これによる自傷行為と判明した。先の尿道鏡所見も箸による損傷と考えると合致する所見であった。精神科にてカウンセリングを行い、症状の意図的算出を特徴とするミュンヒハウゼン症候群との診断に到った。失神についても尿道よりの出血と同じく、本人の虚偽によるものであると考えられた。自傷行為については本人否定し続けるものの、無意識のうちに自傷行為をしている可能性があるということに納得され、2003年7月精神病院へ転院となった。

## 考 察

ミュンヒハウゼン症候群は1951年にイギリスの Asher という医師が、多数の病院に入退院を繰り返す、うその多い派手な症状を呈する患者に対して「ほら吹き男爵」として有名であった、ミュンヒハウゼン男爵に因んで命名した病名<sup>2)</sup>である。

ミュンヒハウゼン症候群は虚偽性障害として位置づけられ、心理的徴候・症状の意図的産出またはねつ造を行い、その行動の動機は病者の役割を演じることであるとされる。

経済的利得、法的責任の回避などを目的とする詐病とは区別される。ミュンヒハウゼン症候群の患者では明らかな利益が存在する場合よりも、動機が判然としないことが多いとされている。医学的知識が豊富なおことが多く、しばしば医療者を混乱させ、苦痛を伴う検査、手術などを何回でも受けたり、その虚偽が明らかにされると病院を転々と変えるといった特徴がある。対応としては、身体疾患の除去、自傷自殺の防止を行

い、医療従事者間で連携し、いかに専門家のカウンセリングを受けさせるかが重要である。

ミュンヒハウゼン症候群の臨床症状はきわめて多彩で、当初は3病型であったものが、種々の病型が追加され現在に到っている<sup>3)</sup>。

①急性腹症型：腹部激痛、腹部膨満などで緊急開腹術を繰り返し、多数の手術痕がある。

②出血型：咯血、吐血、血便、血尿などを主症状とし、他人の血液や動物の血液を混入したり、故意に抗凝固剤を服用するものもいる。

③神経病型：頭痛、失神、痙攣を反復する。

④皮膚型：刃物、爪、薬品などで自傷性皮膚障害を作る。

⑤心臓型：狭心症、心筋梗塞など類似の症状を呈する。

⑥呼吸器型：咯血、胸痛など肺結核類似の症状を示す。歯肉の自傷行為により咯血のまねをしたり、結核菌陽性患者の咯痰を自分の口に入れて出した報告もある。

⑦異物摂取型：針、ピン、スプーンなどを飲み込んだり、尿道から入れたりする。尿に血液、砂糖、卵白などを混ぜたりする。

⑧混合・多症状型：上記のいくつかを組み合わさって複雑な病像を呈する。

⑨子供を代理 (proxy) とした病型：子供の尿に母親が自分の血液を混ぜて、血尿が続くと検査を受けさせたりするなど、児童虐待の一種型である。母親自身がミュンヒハウゼン症候群である場合が20%近く見られる。

泌尿器科領域では本邦報告例はないものの、海外<sup>4,6)</sup>では出血型、神経型、異物型が多いとされる。尿に血液を混入させたり、自験例のように性器を傷つけて出血を起こし、血尿を作る症例などが報告されている。本邦でも他科領域では多数報告があり、中には、死に至った症例も報告されている。診断に苦慮することも多いが、泌尿器科領域においても、診察に際し念頭においておくべき疾患と考えられた。

## 結 語

今回われわれは、診断に苦慮したミュンヒハウゼン症候群患者の尿道自傷の1例を経験したので報告した。

本論文の要旨は第186回日本泌尿器科学会関西地方会にて報告した。

## 文 献

- 1) 加納 健一：詐病, Munchausen 症候群, Munchausen by proxy 症候群. 腎と透析 臨時増刊号: 561-563, 1999

- 2) Asher R: Munchausen's syndrome. *Lancet* **1**: 339-341, 1951
- 3) 上條祐司, 須澤兼一, 北野喜良, ほか: Munchausen syndrome の 1 例. 日内会誌創立100周年記念号 **91**: 199-201, 2002
- 4) Laudadio C, Eickenberg HU and Amin M: Factitious illness in Urology: Munchausen's Syndrome. *J Ky Med Assoc* **77**: 234-236, 1979
- 5) Basu A, Tandon SP, Goswami AK, et al.: An Indian Munchausen with urologic symptoms. *J Postgrad Med* **33**: 213-215, 1987
- 6) Heimbach D and Bruhl P: Munchausen's syndrome in urology. *Int Urol Nephrol* **27**: 539-545, 1995

(Received on March 1, 2007)  
(Accepted on May 14, 2007)